

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生



第5回

セントジョーンズワート

オトギリソウ科に属する多年生草本のセイヨウオトギリソウです。

セントジョーンズワートと呼ばれ、ヨーロッパにはかなりの種類が自生しています。



セントジョーンズワートは気分がすぐれず鬱傾向にあるときに服用します。フランスやイタリアではOTC薬となっています。

また、セントジョーンズワートは西洋薬との相互作用が多い事でも知られており、薬物代謝酵素に作用し、酵素を抑制したり、促進したりします。副作用として、服用後日光に当たって発赤が出る場合があります。

なお、日本のオトギリソウは小連翹と称して傷薬とします。地域が異なったり、民族により極めて近い種でも使い方が全く異なることがあり、民間薬と呼ばれる所以です。

本画はカーチスにより手彩色で描かれた1700年代末の作品です。